



東京大学大学院農学生命科学研究科 生物・環境工学専攻 農地環境工学研究室所蔵

日本農業土木の第一人者として活躍し、また全国にその名が知られる秋田犬ハチの飼い主である上野英三郎。現在の久居元町に生まれ、53歳でその生涯を閉じた上野英三郎の人物像を探ります。

歴史散歩～新春特集～ 上野英三郎

Historic Spot ~ New Year's Special feature ~ Hidesaburo Ueno



上野英三郎博士の歩み

忠犬として全国にその名が知られる秋田犬ハチの飼い主は、明治～大正期の東京帝国大学教授で、農業土木・工学を専門に全国の耕地整理の指導的役割を果たした上野英三郎博士です。

博士は、明治4(1871)年に現在の久居元町に生まれ、明治28(1895)年に東京帝国大学農科大学農学科を卒業、その後大学院に



東京青山霊園の博士の墓碑

進み、明治33(1900)年から大学で講義をしています。この頃、日本では「耕地整理法」が制定され、大規模な耕地整理(現在の圃場整備)が行われようとした時代です。当時その技術指導のできる農業土木の技術者がほとんどいなかった時代に、博士はその第一人者として活躍しました。また彼は、明治44(1911)年、東京帝国大学に我が国初の農業工学講座が開かれた時、初代の講座主任となりました。



農業土木の第一人者として

博士は、古代以来の伝統的な水田規格である一辺60間(約108m)の正方形区画を批判し、

土地の傾斜や地形に合わせて「最小の労力で最大の収量を確保する」規格の整備に重点を置いた理論を展開します。著書『耕地整理講義』は、大学や各地での講義や講演の内容をまとめたものですが、当時実際に行われていた整備例を挙げて、その欠点を指摘しつつ、近代的な耕地整理の要点を一冊に全て盛り込んだ内容となっていて、日本農業土木学の「原典」と評価されています。

博士は、個々の水田が用水路と側道、排水路に接して独立した耕作を可能とする耕地整理の理論を示しています。これは、やがて工業の発展によって労働力が農村から都市に移動し、少